

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2019年度

事業所名 アフタースクールわんぱく

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	82	18	0	基準以上の十分な広さはある	レイアウト等は工夫が必要
	2 職員の配置数は適切である	65	23	12	職員の加配を行っている	今後も増員を検討する
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	94	6	0	トイレ等、バリアフリー化は行われている	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71	29	0	職員で見直し作業を行っている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	0	保護者の評価表をまとめて会議で検討している	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	82	18	0	ホームページで公開している	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	65	29	6	法人監事から業務について指摘があった場合、改善を行っている	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	0	年間研修計画に沿って実施	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	82	12	6	アセスメントの結果を取り入れて計画を作成している	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71	29	0	今年度より、アセスメントの様式を変更している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	82	18	0	チームで作成している	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	88	12	0	アイデア等、日々検討している	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	65	35	0	内容は職員で検討している	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	76	24	0	適宜検討している	長時間活動の際は、特に個別活動に工夫を取り入れるようにしたい
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	0	日々の日課としている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	53	47	0	・翌朝に振り返りの会議を行っている ・会議に出席できない者にはノートに記載し共有	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	94	6	0		記録の標準化をしていきたい
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	94	6	0	計画の見直しは、必要があれば、短いスパンでも行っている	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	76	24	0		ガイドラインの研修等を、今後行っていく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	71	24	0	サービス担当者会議が行われれば参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	88	12	0	各学校とは連絡を密にしている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	59	41	0		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	82	18	0	必要があれば情報提供している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	76	24	0	必要に応じ実施している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80	20	0	研修等があれば参加している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	35	65	0	・学生ボランティアや実習生、大学生等と活動 ・地域の公園を利用	同世代との交流は難しい面もある
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	82	18	0	今年度から開催されるようになったため、参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	88	12	0	連絡帳、面談、送迎時等を利用している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	76	24	0	ペアレント・トレーニングの研修は行っている	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	76	24	0	重要事項説明書等に基づいて説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	71	29	0	相談にはいつでも応じている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	71	29	0	保護者同士で話ができる場所を提供している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	94	6	0	日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	94	6	0	おたよりは毎月発行	内容については検討していく
	35	個人情報に十分注意している	100	0	0	常に気をつけるよう研修も行っている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	94	6	0	事業所全体で分かりやすいように工夫している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	82	18	0	ボランティアも積極的に受け入れている	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	76	24	0	マニュアルは策定済み	周知までいきわたっていない
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	88	12	0	月1回は訓練を行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	94	6	0	年1回は研修を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	88	12	0	必要最低限の拘束にするよう検討している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	76	24	0	保護者より指示書を提出いただき連携をとっている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	0	全員回覧、会議で共有している	関わった職員が責められないような雰囲気作りが必要